

三原市立第二中学校だより

校訓「響き合う二中っ子」

第5号

キャッチコピー「響き合っていますか、私たち」

平成22年6月9日

授業がすべて！授業で勝負！

— 基礎基本の学力や生活力は授業で決まる —

私(校長)が授業を見て回っていて最も不愉快なことは、授業に集中していない生徒の光景です。机に顔を伏せている者、ノートをとっていない者、教科書を開いていない者、あごひじをついている者など。見たくない光景です。学年やクラスによって多少の差異があるものの、少なくとも各クラスにおいて数名の生徒がそのような実態にあるといえます。何のための誰のための授業なのでしょう。

授業を受けることはあなたたち生徒の権利です。授業を提供する義務が先生たちにあるのです。ならば、あなたたち生徒は、先生に対して、よりよい授業を提供してもらえよう要求することができるということになります。

しかし、今のあなたたちの様子を見てみると、そのような要求もなさそうです。もしかすると、そのようなあなたたちを前にして、先生たちは物足りなさを感じているのかもしれませんが。このようなことではせっかくの権利も台無しです。誰が損をすることになるのでしょうか。それはあなたたちです。

授業時数は1日6時間、1週間で30時間、1ヶ月で約160時間、1年で約1600時間にもなります。これほどの時間をあなたたちはどうしようとしているのですか。先生の日や黒板に穴が開くくらい見つめる集中力がまず必要でしょう。

その集中力は学習意欲から生まれてくるものです。学習意欲は「志」があるかないかによって決まります。「志」は「生きる目標」といっても過言ではないでしょう。集中力と学習意欲があれば自ずと「立腰」の状態になります。腰が砕けている状態では集中力がきれ、学習意欲が乏しくなります。その意味から、「立腰」は「集中力」及び「学習意欲」のバロメーターといえます。

「立腰」の状態で集中力をもって授業に臨んでいる姿は、実に中学生らしくさわやかな光景です。生徒の学習意欲と先生の教授への情熱とが一体となったとき、真剣勝負の授業が成立するのです。生徒同士の相互作用が真摯に行われる授業は真剣勝負の授業の上に成立する代物です。



6月中・下旬の行事予定

9日	水	3年保育実習
10日	木	耳鼻科検診(1年)
11日	金	英検
12日	土	授業参観, 学年懇談会, PTA 親睦球技大会
14日	月	振替休日(6/12分)
16日	水	PTA あいさつ運動, 市教研(教科外)
17日	木	口腔検査(3年), 三原市生徒指導主事研修会
21日	月	試験発表
23日	水	校内研修会(3年道徳), 管内保健主事研修会
25日	金	授業参観, PTA 教育講演会(保護者・生徒・教職員参加)
28日	月	1学期期末試験①
29日	火	1学期期末試験②, 地域看護実習①
30日	水	1学期期末試験③, 地域看護実習②

学級の状態と学力の関係

— 人間関係形成の度合いに注目 —

河村茂雄・早稲田大学教授の調査(平成17-18年に、1都8県の小・中学校を対象に実施したもの。学級数は約1800学級、児童・生徒数は約5万人。児童・生徒に、学級生活の満足度や学習意欲を測定するアンケート(「Q-U」)と、学力の定着度を測定するテスト(NRT)を実施。)の結果が日本教育新聞に掲載されました。満足型を！

承認得点(自分の存在や行動が、級友や教師からどの程度承認されていると感じているかを点数化した得点)

第2の分類「管理型」
承認得点にはばらつきが大きく、被侵害得点は低い児童・生徒が多い。
○規律は確立、人間関係の形成が未熟
☆(高)20.7%-(低)18.0%

第1の分類「満足型」
承認得点が高く、被侵害得点が低い児童・生徒が多い。
○学級内の規律が確立しているとともに、学級内の親和的な人間関係が確立している傾向にある。
☆期待される到達点よりも高い児童・生徒の割合が27.4%、低い児童・生徒の割合が8.6%

被侵害得点
(学校への不適応感)

第3の分類「なれあい型」
承認得点の高い児童・生徒が多いが、被侵害得点にはばらつきが大きい。
○児童・生徒は伸び伸びしているような雰囲気があるが、規律が徹底していない。
☆(高)12.1%-(低)11.7%